

2026年4月20日(月)に小規模交流勉強会を開催いたしました。

2026年4月20日(月)に、第17回小規模交流勉強会を開催しました。今回は、目覚ましい進化を遂げるAIの実像に迫り、私たちの暮らしは元より、企業経営に与える影響をどのように受け止めるべきかについて、社団会員で日本政策投資銀行執行役員の矢端謙介さんをプレゼンターにお招きし、「企業経営におけるAI実装の課題と未来」と題して勉強会を開催いたしました。いつもの通り、チャタムハウスルールに則して自由活発な意見交換の「学びの会」となりました。



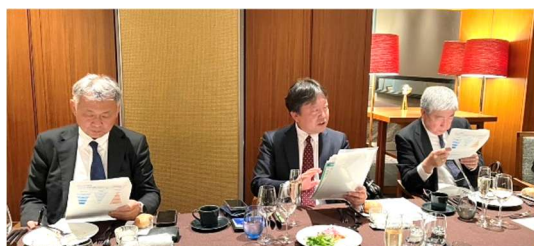
【矢端氏】

冒頭で、AIの進化により、「士業やエンジニアなどのホワイトカラーに加えデザイナーやライター(創造的活動)」がAIに取り替わると言われていると語られました。

同行のAI推進責任者の立場にもある矢端さんは、同行の過去3年間の具体的な取り組みを題材に、初年度は人間が質問しAIが回答するチャット型のAI、次年度にメールやデータ集計のワークフロー型のAI、続いて自律型のAIエージェント構築までの歩みの変遷に触れました。そして、2030年に向けて①人とAIの適切な関係を模索し、

②AI-readyなデータ蓄積を行い、③AIガバナンスの強化が必要であると説かれました。

最後に、生成AIの最新トレンドによれば、セキュリティおよびコスト面から大規模言語モデル(LLM)から小規模言語モデル(SLM)が選択肢となってきており、安全性・独立性の視点からソブリンAIの考え方が台頭していると。最後に、日本の勝ち筋は現場実装にあるとの言葉で結ばれました。



【勉強会の様子】

参加の皆さんから、次のような質問が飛び交いました。「製造業においてAI導入に成功している事例は」「研究開発部門のどの領域にAI実装が適しているか」「生成AIの活用が業務効率化から業務変革を起こすトリガーは」「AI導入後に見えてくる新たな課題とは」「日本がAI導入で世界に勝てる産業は」「高精度の業務処理システムの設計・開発はAIに任せられるか」「工場等の設備評価をAIに任せて良い領域と駄目な領域とは」「社内の情報公開と機密情報管理の有り様は」などなど。

終了時間を超えるまで質疑が続き、参加の皆さんから次々に感想が届きました。「AIの概念論に止まらないリアルな課題に向き合う大切さを学んだ」「失敗を過度に恐れずガードレールを設けて前に進むことが重要」「人とAIがやるべきことを整理する必要性を理解」「暗黙知を収集してAIに学習させることで情報の伝承が進む」

また、「参加者が主体的に質問、発言できる場を設けて頂き有難い」「参加者同士での意見交換から得られる気づきが多かった」さらに、参加された斉藤理事からは「大変勉強になりました」と感想を頂きました。

この小規模交流勉強会は限られた参加者だけが共有できる本物・本音・本質の「学びの場」で、参加者が皆主役となり各人の暗黙知がメンバー限りで伝播・発酵される面白い勉強会です。

次回は4月30日に社団会員の参与藤崎一郎さん(元駐米大使)をプレゼンターにお招きし「日米中関係とトランプ政権」の勉強会を開催する予定です。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます(永峯紀)



【記念写真】